

ソーシャルジャスティスと

若者によるドキュメンタリー

—若者の表現は社会問題に関する人々の意識をどのように変容しえるのか

震災と原発事故。

私たちが、目をそむけようとした そのときも
彼女たちはずっと、向き合いつづけた
作りつづけた 伝えつづけた

きっと、
抱えきれないほど
たくさんのかなしみ、怒り、
不安を抱えながら。

彼女たちが、高校最後の作品として作った
それぞれの“今伝えたいこと”
新入生を迎え、生まれた新たな作品
——福島高校生のレンズを通してみる、震災。

これは、ウェストバージニアから、ウィスコンシン
のあなたへのラブレターなんだ。鉱山
開発で僕たちの川に、自然に、何が起きたの
か・・・。

——米国大学生のレンズを通してみる鉱山
開発「To Wisconsin With Love」



メインシンポジウム（上映会つき国際セミナー：日本語通訳付）

1月7日（水）午後2時から5時 熊本大学 くすの木会館

住所：熊本市中央区黒髪 2-40-1

電話番号：096-342-3995

2時 講演「ソーシャルジャスティスとメディアアーツ」

演者：Paulette Moore 氏（米国イースタンメノナイト大学）

3時 日米の若者による環境正義に関する作品紹介（解説付き）

4時半 日米制作指導教員パネルディスカッション

「若者によるドキュメンタリーの可能性」

（P.Moore 准教授×渡部義弘教諭、司会：熊本大学 石原明子）

福島の子者によるメディア作品セミナー

＜水俣＞ ※制作チームとムーア准教授の解説つき

1月6日（火）午後6時半から8時半

水俣市：もやい館 会議室

水俣市牧ノ内 3-1 0966-62-3120

＜熊本＞

※制作チームとムーア准教授の解説つき

1月7日（水）午後6時半～8時半

熊本市：熊本大学くすの木会館

作品紹介：

「見えぬ壁」（映像ドキュメント、25分） 福島県立相馬高校 作品

高校3年生、当時の私は友達と震災に関する話を話す事はなかった。それは、思い出させてしまったり、傷つけてしまうかもしれないからだ。さらに、福島県は被災の仕方が様々だ。相手がどういう状況なのか分からない。友人が現在どう思っているのか、もう向かい合う事は出来ているのか聞いてみたかった。これは私の周りの小さなコミュニティだけの事象ではなく多くの人が感じている難しさと思い、この番組を制作した。

「これから。」（短編ドラマ、17分） 福島県立相馬高校 作品

本作を制作したのは高校三年生の冬。私は卒業を目前に控えていた。今、震災から3年という月日が流れ、世は「震災」を忘れ始めている。震災による直接的な被害はほぼ収束している。しかし、未だ偏見や無知な部外者がいるのも事実だ。私達はそんな環境の中、3年間を「生きて」きた。誰しもが未来への漠然とした不安の芽が小さく根をはっていたあの中で。巣立ちを目前に控えたこれまでを振り返りある種の決別も含め、この作品を作った。未来は分からない、しかし未来は必ずやって来る。

「To Wisconsin With Love」（映像ドキュメント、44分） USA Eastern Mennonite University 作品

豊かな自然に恵まれたウェストバージニアの過去と現在の姿をとらえたカメラのレンズ……。鉄鋼発掘による環境汚染の脅威にさらされているウィスコンシンスペリオル湖流域の人々へのラブレター。

Paulette Moore 氏

米国イースタンメノナイト大学

准教授（メディアアーツと平和構築）

米国の紛争変容・平和構築の拠点的大学で、社会変革とメディア、ドキュメンタリーと語りフィルム、ソーシャルメディア、アートによる平和構築を教える。自身も、多くの映像作品を手がけ、1990年代前半には、日本でNHKなどのドキュメンタリー作品制作にもかかわる。

2014年には、イースタンメノナイト大学の学生と共に、開発による環境汚染の可能性にさらされているウィスコンシンのある地域に対して、鉱山開発による環境汚染を経験したウェストヴァージニアからメッセージを紡ぐ映像作品「To Wisconsin With Love」を制作。

福島県立相馬高校放送局

東京電力福島第一原発から北に約40キロの福島県沿岸部にある相馬市の県立高校で、部活動として映像作品やラジオ作品をつくる。震災後からの作品は、注目され、全国各地と海外で上映される。2013年に水俣や長崎を訪ねたときの経験を元に作った映像作品「相馬高校から未来へ」は、NHK杯全国放送コンテストのテレビドキュメント部門で全国一位を獲得する。彼らの作品は、原発災害後の様々な人間関係の葛藤をも変容させる力

主催：人文社会科学系 国際共同研究拠点
熊本大学大学院社会文化科学研究科
石原明子（紛争変容・平和構築学）

問合せ：熊本大学大学院先導機構

山田麻衣まで

maiya@kumamoto-u.ac.jp

096-342-2390